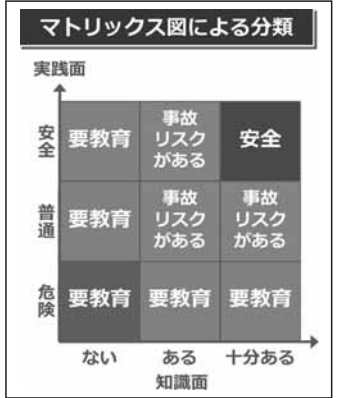


# 企業向け交通事故防止

## 九州大と連携 コンサル会社「事故なき社会」 知識と実践の両面から研修を



事故なき社会株式会社(福岡県大野城市、江上喜朗代表)は、九州で最大の入校生を有する自動車教習所「株式会社南福岡自動車学校」が100%出資する企業向けの各種交通安全研修プログラムを提供する研修・コンサルティング会社。同自動車学校が九州大学と長年にわたり、安全運転や交通

事故防止に関する研究面で連携して蓄積したノウハウをベースに、2012年3月に立ち上げた。主な事業内容は、企業向けの交通安全防止のためのコンサルティングや企業ドライバー向けの安全運転研修、安全運転に関する装置や試験プログラムの開発・提供などで、企業の従業員1人ひとりの運転能力にあわせた実車による実践研修と管理者向けの定期的な講義など企業全体に向けた事故防止コンサルティングの両面を実施するのが特徴。

事業を拡張している。交通事故のうち9割が初犯という状況のなか、事故経験者を中心とした研修では事故は減らないという考えに基づいて「次に事故を起こしそうな人」を抽出し、その人に適切な教育を行うことを実施している。具体的には、半年に一度ドライバー全員に知識面と実践面から判定する仕組みを受講してもらう。知識面では、安全運転能力検定を用いて安全運転に必要な知識を習得しているかを判定する。実践面では、

企業は社用車などに簡易測定ツールを取り付けて運転してもらい、その運転データを分析し、安全運転が実践できているかを判定する。これにより知識面と実践面の両面から安全運転に必要な課題を抽出できる。

判定の結果、問題がないドライバーは半年後に再度、同様の判定を実施する。一方、改善を要するドライバーに対しては、個別の教育を行う。その際は、全ドライバーへの画一的な研修をするのではなく、知識面の教育が必要なドライバーに対しては講義やテキストなど知識の補充に重点を置いたプログラムを課し、実践面の教育が必要な場合は実車研修による指導を重点的に行う。

実車研修では、九州大学と共同開発した5分割マルチビデオ車を活用する。前方・後方・右側・左側・ドライバー自身の

創業4年目ながら、取引先企業200社、年間5000名以上の研修・コンサルティング実績を有し、現在は東京にも拠点を構えるなどして

交通事故のうち9割が初犯という状況のなか、事故経験者を中心とした研修では事故は減らないという考えに基づいて「次に事故を起こしそうな人」を抽出し、その人に適切な教育を行うことを実施している。具体的には、半年に一度ドライバー全員に知識面と実践面から判定する仕組みを受講してもらう。知識面では、安全運転能力検定を用いて安全運転に必要な知識を習得しているかを判定する。実践面では、

判定の結果、問題がないドライバーは半年後に再度、同様の判定を実施する。一方、改善を要するドライバーに対しては、個別の教育を行う。その際は、全ドライバーへの画一的な研修をするのではなく、知識面の教育が必要なドライバーに対しては講義やテキストなど知識の補充に重点を置いたプログラムを課し、実践面の教育が必要な場合は実車研修による指導を重点的に行う。

マルチビデオ車を活用する。前方・後方・右側・左側・ドライバー自身の合計5か所にカメラを設置して実際の運転状況を撮影し、同時にアクセル・ブレーキ・速度も記録する。その後、その映像を基にフィードバックを行う。このため、自分自身で自分の運転を客観的に正確に振り返ることができ、受講者からも新たな気づきを得られたと評価が高い。

同社の研修で基本としている考え方が、九州大学名誉教授の松永勝也氏が提唱する「KM理論」だ。自動車運転の事故は認知反応時間の突発的な遅れによる停止距離の延長と、早着・先行衝動に基づく進行方向空間距離の短縮、の2大要因で起きるとしており、適正な

車間時間をとるなどすれば事故は大幅に軽減できるといふものだ。

平成25年に警察庁がまとめた交通事故統計では車間同士の事故のうち7割が、追突と出会い頭による衝突によるものだという結果が出ている。

事故なき社会株式会社の江上代表は「交通事故防止の研修は複雑なものが多くみられるが、実は、車間時間を4秒以上とること、見通しの悪い交差点への進入時一時停止を2回以上行うことだけを、まずは実践してもらえばいいのです。当社ではこの考え方をもとに取り組みを進め、事故なき社会を実現させたいと思っております」と話す。

合計5か所にカメラを設置して実際の運転状況を撮影し、同時にアクセル・ブレーキ・速度も記録する。その後、その映像を基にフィードバックを行う。このため、自分自身で自分の運転を客観的に正確に振り返ることができ、受講者からも新たな気づきを得られたと評価が高い。

同社の研修で基本としている考え方が、九州大学名誉教授の松永勝也氏が提唱する「KM理論」だ。自動車運転の事故は認知反応時間の突発的な遅れによる停止距離の延長と、早着・先行衝動に基づく進行方向空間距離の短縮、の2大要因で起きるとしており、適正な

車間時間をとるなどすれば事故は大幅に軽減できるといふものだ。

平成25年に警察庁がまとめた交通事故統計では車間同士の事故のうち7割が、追突と出会い頭による衝突によるものだという結果が出ている。

事故なき社会株式会社の江上代表は「交通事故防止の研修は複雑なものが多くみられるが、実は、車間時間を4秒以上とること、見通しの悪い交差点への進入時一時停止を2回以上行うことだけを、まずは実践してもらえばいいのです。当社ではこの考え方をもとに取り組みを進め、事故なき社会を実現させたいと思っております」と話す。